

令和4年度

中国環境パートナーシップオフィス
中国地方ESD活動支援センター

業務実施報告書(概要版)

運営団体: 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

1 業務スキーム及び戦略

仕様書に基づく業務の内容を方針に合わせて構造化すると共に、令和2~4年度の成果を積み上げていくための重点性を設けて、業務を戦略的に推進する。



2 EPO ちゅうごく業務

① 持続可能な社会の実現に向けた地域協働モデルの創出及び支援

i) 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム支援

中国地方の支援事務局として採択団体に必要な支援を実施することを通して、全国的にモデルとなる地域循環共生圏づくりプラットフォームの構築を支援した。また、環境本省をはじめとする関係機関と共に全国の進捗共有や事業スキームの改善を図りながら事業を推進した。

<実施概要>

地域循環共生圏構築に向けた環境整備（構想づくり、体制構築、実現のための取組検討、中長期目標指標検討）を行う4団体に対し、中国四国地方環境事務所と連携して必要な支援を行った。

<支援した団体と取組概要>

・瀬戸内市（岡山県瀬戸内市）／1年目

市内唯一の高校を核に学校教育と社会教育を融合させるツールとして、「瀬戸内市オリジナルのSDGsカードゲーム」を制作し、そのプロセスを通して瀬戸内市に愛着を持って応援してもらえる人材を育成する。瀬戸内市に関わる市内外の関係者がありたい未来に近づくために語り合う場を構築し、そのネットワークを生かして、それぞれの得意分野を持ち寄ることで、自らの力で地域課題を解決する自立・分散型の地域を目指す。

・株式会社YMFG ZONE プラニング（山口県大島郡周防大島町）／1年目

高校性が授業を通じて提案する地域課題解決型プロジェクトを、町内外の企業・事業者、金融機関、行政機関、地域活動団体等が連携して応援（実行、実現化）する体制を構築し、環境（ニホンアワサンゴをはじめとする自然景観の保全、担い手育成フィールドとしての活用を通じた保全の促進等）、経済（次世代の担い手による地域課題解決産業の創出（企業等）、エコツアーリズムプログラムの活性化による消費拡大等）、社会（次世代の担い手の育成・地域創生教育のモデル地域化・新たな人（子供）の流入拡大等）の3側面が連動・循環する地域づくりを目指す。

・一般社団法人隠岐ジオパーク推進機構（島根県隠岐郡4町村）／2年目

隠岐4島の観光を取りまとめる隠岐観光協会を吸収合併してDMO（観光地域づくり法人）化することで、ジオパークの理念を盛り込んだ教育を基本に地域づくりを行い、自然資源の保護も視野に入れた観光を基軸とした持続可能な隠岐地域の実現を目指す。昨年度に組み立て直したSDGsや地域循環の観点を盛り込んだ基本方針に沿って、具体的なアクションプランを立案し、機構の構成員や地元住民・事業者等に理解を広め、実践に向けた連携体制を構築する。

・株式会社萩・森倫館（山口県萩市）／2年目

地域産の木材利用促進のため、林業、製材加工、建築設計、ユーザー等、立場の異なる主体に対し活用の呼びかけや体験を通して関心の拡大や事例づくりを進めるとともに、関係者間相互の情報交流や学びあいの機会を通じて、木材利用の好循環を生み出すネットワークを構築し、地域内外への供給、利用の仕組みづくりを目指す。昨年度の取組で得た課題を踏まえ、人（暮らし）と森（木）との関係を再認識するための機会を通して、木材への関心喚起と地域づくりに携わる関係者とのネットワーク構築を目指す。

（注）地名の表記は、対象事業の活動地域。

＜情報共有、相互参照の機会＞

- ・キックオフミーティング（6/7、オンライン会議）／全ての取組団体が集まり、年間実施計画や取組目標の共有、意見交換を通じてブラッシュアップを行うサポートをした。
- ・中国ブロック中間共有会（9/28、広島県広島市）／中国地方の取組団体が集まり、中間段階の取組状況の共有と意見交換により取組課題へのヒントやアプローチを探る場を設けた。
- ・成果共有会、情報交換会（3/8～9、東京都中央区）／全ての取組団体が集まり、1年間の取組成果発表と質疑応答を行い、取組のバージョンアップや相互の関係づくりをサポートした。

ii) 森里川海推進ネットワークの形成

森里川海の保全活動に係る中国地方の民間団体、自治体、企業、専門家、教育関係者等との情報交換の場を通して、保護制度の有無を問わず、地域の連結性のあり方や可能性を検討した。

また、森里川海の保全活動団体や森里川海に恩恵を受け生活している地域住民が、森里川海と自分たちの活動や生活の繋がりを改めて認識し、多角的な視点や協働について理解を深める機会とした。

＜実施概要＞

森里川海の保全活動に係る主体や、森里川海に恩恵を受け生活している地域住民が、森里川海と自分たちの活動や生活の繋がりを改めて認識し、意識と行動を変容させるとともに、民間等の取組により保全が図られている地域や保全を目的としていない管理が結果として自然環境を守ることに貢献している地域（OECM）の発掘やステークホルダーの情報収集等を行うことを目的に、ヒアリングと情報交換会を実施した。

＜実施した情報交換会＞

- ・ハワイから学ぶ！森里川海のつながりとサステナビリティ 環境保全と開発 ～あなたならどこで魚釣りをしますか？～（7/17、岡山県岡山市）
- ・ハワイから学ぶ！森里川海のつながりとサステナビリティ システム思考でつながりを考える（9/25、広島県広島市）

iii) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

中国四国地方環境事務所や過年度の関係団体等と連携した情報交換会やワークショップ等の開催を通して、引き続き地域金融機関や企業等との関係を構築すると共に、地域循環共生圏等の基本的な考え方や地域資源の活用に向けた方向性等を共有した。

また、GEOCが実施するヒアリングに対応し、本事業で形成してきた地域金融機関や企業、経済団体等とのパートナーシップの成果を体系的に整理した。

＜実施概要＞

地域脱炭素創生室や地域金融機関、企業、経済団体、自治体、メディア等と連携して、「脱炭素ビジネス」「地域脱炭素」「脱炭素経営」「ローカルSDGs」をテーマにセミナー等を開催し、幅広いステークホルダーのパートナーシップ形成や取組支援を図った。

＜実施した情報交換会・ワークショップ等＞

- ・SDGs 脱炭素経営実践研修会（11/24、鳥取県東伯郡北栄町）／北栄町の地域脱炭素ロードマップ策定において、地域事業者を対象とした勉強会の開催を支援した。
- ・雑誌「地域人」編集長に聞く ～地域循環共生圏 地域を幸せにするローカルSDGsの具現化～（12/6、広島県広島市）／地域のSDGsの取組をいかに発信すれば、地域づくりに活かせるか、日本各地の取組を知る編集者と大学の研究者の対談から読み解くセミナーを開催した。

- ・脱炭素ビジネスセミナー ～新たなマーケットへの第一歩～（1/30、岡山県岡山市）／脱炭素ビジネスの意義や事例から企業の取組を促進するセミナーを地域脱炭素創生・岡山コンソーシアムと共催した。
- ・脱炭素地域づくり情報交換会（3/8、オンライン会議）／脱炭素先行地域選定自治体の実施事例から、先行地域を目指す自治体が具体的な進め方、留意点を学ぶ意見交換会を開催した。

② 中間支援機能との連携強化

i) 地域循環共生圏づくり支援ネットワークの強化

中国地方の特色を活かした優良事例（環境・社会・経済・教育の循環）を題材に、地域循環共生圏（ローカル SDGs）を体験学習することができるインターンシップ・プログラムを開発するとともに、そのプロセスを通して地域循環共生圏づくりを担う実践者や支援者の育成を図った。

<実施概要>

地域循環共生圏づくり支援ネットワークの構成団体である認定 NPO 法人自然再生センターと、中国地方の特色を活かした優良事例（環境・社会・経済・教育の循環）を題材に、ローカル SDGs（地域循環共生圏）を体験学習することができる人材育成プログラムを、実践型研修を通じて作成した。

<実施した研修等>

- ・プロジェクト・ファシリテーション研修（4/9、広島県山県郡北広島町）
- ・ローカル SDGs の担い手育成プロジェクト研修（7/25、オンライン会議）
- ・ローカル SDGs の担い手育成プロジェクトフォローアップ研修（7/27、オンライン会議）
- ・インターンシップ・プログラム体験研修（9/30、広島県山県郡北広島町）
- ・ローカル SDGs の担い手育成プロジェクトフォローアップミーティング（3/16、EPO ちゅうごく）

ii) 中間支援組織が開催するイベント・セミナー等の支援

各地における活動の発展や団体の成長、広域的な人材・情報交流を促すため、中国地域内外の中間支援組織等が行うイベント等の開催協力や広報、参加を通して、中間支援機能を強化する。

<実施概要>

相談対応を通して協力依頼があったイベント等の参加や開催協力を計 13 回実施した。そのうち、北栄町の「ほくえい未来トーク 2022」を計 2 回（延べ 51 名の参加者）、広島 SDGs コンソーシアムの「SDGs オンラインセミナー」を計 1 回（オンライン開催：24 名の参加者）共催した。

③ 相談対応及び情報センター業務

i) 相談対応

環境教育等促進法第19条に基づく拠点として、環境保全活動や環境教育、協働取組等に係る相談及び照会に対応し、民間団体・地方公共団体双方の取組を支援することを通して、自主的・自発的な取組や協働の促進に努めた。

また、対応案件から得られた情報・知見を関係機関と共有し、他団体と連携した対応を行うことで相互扶助機能を高めるよう努めた。

<問い合わせ・相談実績>

・広報協力、EPO 事業関連、情報収集、人材・事例紹介、団体活動や事業支援相談等：計 236 件

ii) 情報センター業務

環境パートナーシップ拠点の基盤として必要な情報を収集・分析・蓄積すると共に、戦略的かつ計画的な発信を通して、中国地域の環境保全活動や協働取組、EPO ちゅうごく業務への理解を深めるよう努めた。

また、リニューアルしたホームページを活かして効果的な情報発信を展開し、情報発信の成果の波及に努めた。

<主な実績>

- ・情報（書籍、雑誌、会報、報告書、行事広報等）収集数：計 478 点
- ・ホームページ情報（行事、補助金・助成金、公募・募集、環境の話題等）発信数：計 1,354 件
- ・メールマガジン（定期・臨時）発行数：25 回（3/17 時点で 946 件登録）
- ・SNS 発信数：49 回
- ・EPO ちゅうごくの行事開催報告（随時掲載）
- ・過去に連携した団体、専門家のインタビュー記事：3 件

④ GEOC 及び地方 EPO ネットワークの連携強化

i) 全国 EPO 連絡会

地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）及び各地方 EPO が連携して開催する全国 EPO 連絡会議（3 回）に参加し、環境パートナーシップの推進、ESD の普及促進に関わる取組について情報共有と事業連携を図った。

<出席した会議>

- ・第 1 回全国 EPO 連絡会（6/14、東京都渋谷区、オンライン会議併用）
- ・第 2 回全国 EPO 連絡会（10/11～12、熊本県熊本市、オンライン会議併用）
- ・第 3 回全国 EPO 連絡会（1/24、東京都渋谷区、オンライン会議併用）

ii) 地方 EPO ネットワーク情報交換会

脱炭素社会の構築をはじめ取組が求められている政策課題・テーマについて、考え方の共通認識化を図るとともに、国・地方自治体の動向、連携を図るべき団体や専門家との接続などを目的として情報交換を行った。

<出席した情報交換会>

- ・ 第1回情報交換会（12/23、オンライン会議）／テーマ：地域脱炭素に向けた環境省の取組、先行事例を踏まえた中間支援のあり方
- ・ 第2回情報交換会（3/16、オンライン会議）／テーマ：地域脱炭素に取り組む地方公共団体と企業のマッチング事例、課題、留意点
- ・ 第3回情報交換会（3/24、オンライン会議）／テーマ：自然共生サイト認定地試行から見えてきた EPO/GEOC に期待する役割

iii) 四国環境パートナーシップオフィス（以下「四国 EPO」という。）運営委員会

中国四国地方環境事務所管内の地方 EPO 間連携を強化するため、高松市で開催される四国 EPO 運営委員会へ出席し、取組状況の把握に努めた。

<出席した会議>

- ・ 第1回運営委員会（7/12、香川県高松市、オンライン会議併用）／令和4年度事業計画の確認と連携による取組の意見交換
- ・ 第2回運営委員会（3/17、香川県高松市、オンライン会議併用）／令和4年度事業の実施報告と次年度に向けた取組の意見交換

3 中国地方 ESD センター業務

① ESD 活動を支援する情報共有

i) 相談対応

ESD 推進ネットワークのハブとして、事業から得られた情報やノウハウ等を活用しながら相談及び照会に対応し、民間団体・地方公共団体双方の取組を支援することを通して、自主的・自発的な ESD 活動や協働の促進に努めた。

また、対応案件から得られた情報・知見が活用できるよう関係機関と共有し、他団体と連携した対応を行うことで相互扶助機能を高めるよう努めた。

<問い合わせ・相談実績>

- ・広報協力、ESD センター事業関連、情報収集、人材紹介、研修・事業の相談等：計 111 件

ii) 情報収集、発信等

中国地方の ESD 推進ネットワークのハブとして、全国及び各種のネットワークを活用し、ESD 活動を推進するために必要な情報・知見・ノウハウを収集するほか、国の政策や地域の活動、中国地方 ESD センターの取組等を効果的に発信するとともに、全国・地方センターと連携した情報発信を強化し、ESD の普及・啓発や活動の発展、広域的な情報交流、中国地方 ESD センター業務への理解促進を図った。

<主な実績>

- ・情報（書籍、雑誌、会報、報告書、行事広報等）収集数：計 282 点
- ・ホームページ情報（行事、補助金・助成金、公募・募集、ESD 情報等）発信数：計 215 件
- ・メールマガジン（定期・臨時）発行数：EPO ちゅうごくと一体で発行
- ・SNS 発信数：30 回

② 現場のニーズを反映した ESD 活動の支援

ESD に関連する様々なイベントや会議等への出席を通して、関係機関や地域 ESD 活動推進拠点、ESD 実践団体等と情報交流を行い、ESD 推進のための実践者・支援者・地域の支援ニーズの把握やネットワーク構築、中国地方 ESD センター業務への理解促進を図った。

また、これらを踏まえて、EPO ちゅうごく・中国地方 ESD センター運営委員会において ESD 活動の支援機能について検討し、その結果を ESD 推進ネットワークで共有・活用することで幅広く効果的な支援を展開した。

<実施概要>

ESD に関連するイベント等への開催協力や参加について、年間を通じて支援を実施した。また、ESD 推進のための課題や展望に関する現場のニーズを整理すると共にリストを作成して業務運営に活用した。

<主な支援>

- ・広島県 SDGs ビジネスコミュニティ／共催：2 件、出席：6 件
- ・東広島市教育委員会生涯学習課／講師：12 件、出席：4 件
- ・北栄町脱炭素ロードマップ策定支援／共催：1 件、出席：5 件
- ・安田女子大学プロジェクト支援／出席：12 件
- ・その他イベント等／共催：1 件、協力：2 件、講師：5 件、出席：3 件
- ・後援名義申請承諾／2 件

③ ESD 活動のネットワークの形成、ESD 実践の学びあいの場の促進

i) 全国 ESD センター及び他の地方 ESD センターとの連携強化

全国の関係機関や有識者等が集う会議への出席を通して、第 2 期 ESD 国内実施計画等を踏まえた ESD 推進ネットワークの新たな方向性や事業スキームの展開を図り、全国各地の情報共有や連携を促進した。

<出席した主な会議>

- ・第 1 回 ESD 活動支援企画運営委員会（6/23、オンライン会議）／今年度の事業計画、「気候変動教育（仮称）」のあり方についての意見交換
- ・第 2 回 ESD 活動支援企画運営委員会（3/2、オンライン会議）／今年度の事業報告、気候変動を切り口とした ESD の進め方や次年度活動の意見交換
- ・第 1 回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会（6/15、東京都渋谷区、オンライン会議併用）
- ・第 2 回 ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会（1/23、東京都渋谷区、オンライン会議併用）
- ・ESD 推進ネットワーク可視化タスクフォース（計 4 回、東京都渋谷区）
- ・第 1 回四国地方 ESD センター運営委員会（7/1、香川県高松市、オンライン会議併用）／今年度の事業計画、連携した取組への意見交換
- ・第 2 回四国地方 ESD センター運営委員会（3/16、香川県高松市、オンライン会議併用）／今年度の実施報告、次年度の取組に向けた意見交換

ii) ESD 活動に関するネットワークの構築

全国の地域 ESD 拠点や ESD 実践者等と積極的に情報交換を図り、中国地方においても地域資源を活用した学びあいの機会づくりを通して、ユース・指導者・マスコミ等と連携して SDGs マルチステークホルダープロセスを推進する。

また、地域 ESD 拠点の登録支援や継続的なフォロー、他分野・新たな主体の参画を通して、中国地方及び全国の ESD 推進ネットワークの拡充し、地域 ESD 拠点の機能強化を図る。

<開催協力した会議>

- ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2022（12/10、東京都渋谷区、オンライン会議併用）

<共催した会議>

- ・ESD 学び合いフォーラム「ひろしま SDGs meeting」（12/3、広島県広島市）

<活動支援した地域 ESD 拠点>

- ・しまね海洋館アクアス
- ・ECO フューチャーとっとり

④ 人材育成

i) 活動計画の作成

プロジェクトのテーマや中核となる ESD 活動実践者等について、担当官との協議、全国 ESD センターとの調整の上で選定し、年間活動計画を作成した。

<実施概要>

過年度にしまね海洋館アクアスと共催した「SDGs カフェ」の発展プロジェクトとして、水族館、NPO、ユース、事業者、専門家、中間支援組織、マスコミ等が協働し、地域の課題解決や SDGs の理解促進に資する ESD プログラムの開発及び市民への体験機会の提供を行うことを通して、地域 ESD 拠点を巻き込む ESD 推進ネットワークの拡充及び担い手の育成を図った。

ii) 学び合いの実施

テーマに関する学び合いや参加者間の交流を目的とした場として、勉強会・意見交換会（実践活動の振り返り会等を含む。）を開催した。

<実施した会議>

- ・第 1 回学び合い（5/20、島根県浜田市）
- ・第 2 回学び合い（6/24、島根県浜田市）
- ・第 3 回学び合い（7/9、島根県浜田市）
- ・第 4 回学び合い（10/6、島根県浜田市）
- ・第 5 回学び合い（10/23、島根県浜田市）
- ・第 6 回学び合い（11/25、島根県浜田市）

iii) 実践活動の実施

ii の学び合いの内容も踏まえ、テーマに関する実践活動を実施した。

<実施した活動>

- ・釣ったらわかる いわみの SDGs（10/23、島根県浜田市）／魚釣り（仕掛け付から、釣った魚をさばいて料理するまで）体験を通して、持続可能な石見の海のあり方（SDG14）を学び合う取組。

iv) 報告

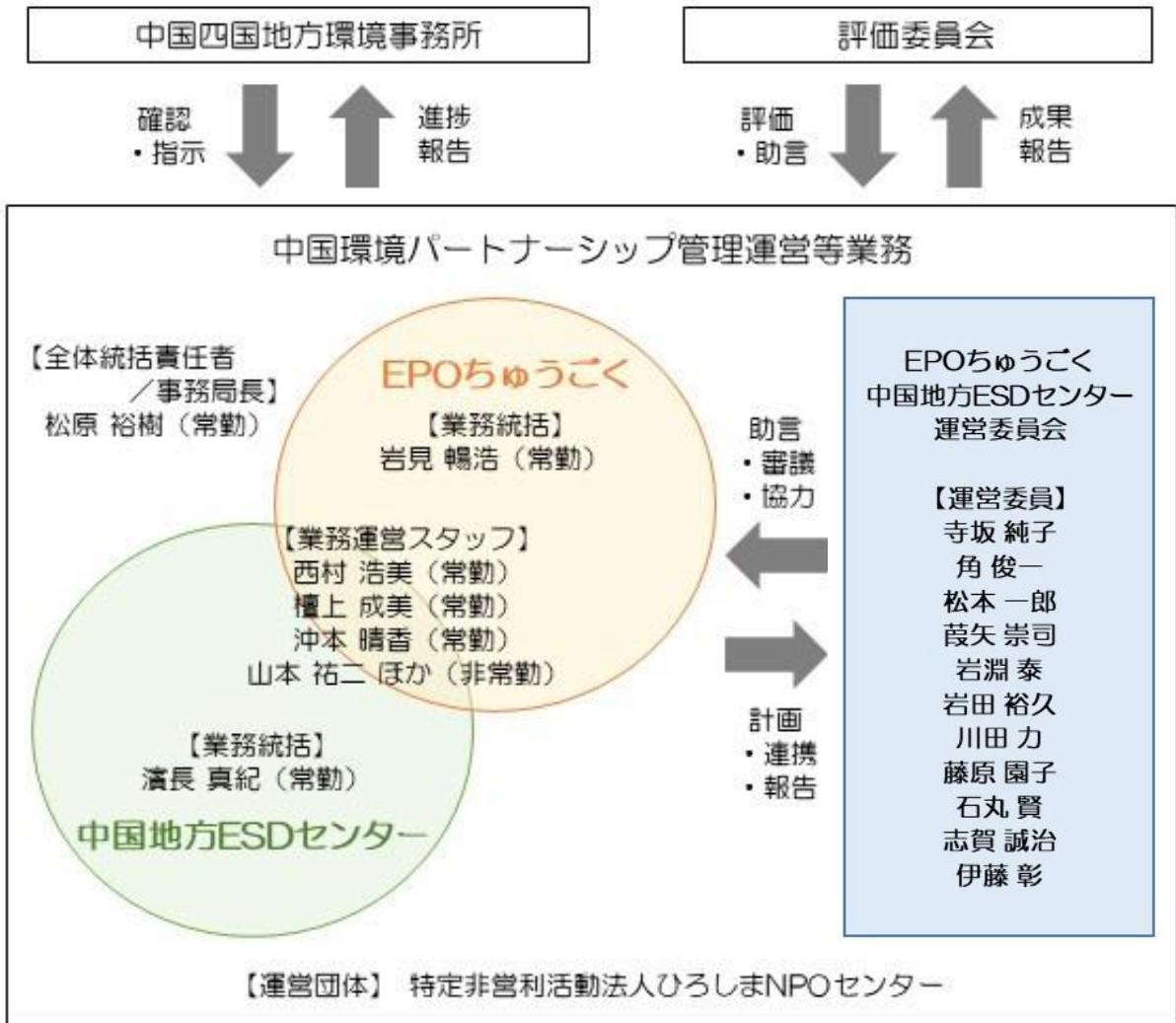
<実施した活動>

- ・ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2022（12/10、東京都渋谷区）／「実践的・包括的な SDGs 人材育成を目指して～気候変動教育からはじめよう～」のポスターセッションを通じた学び合いプロジェクトを報告した。

4 管理業務

中国四国地方環境事務所や他地方環境パートナーシップオフィスと連携して、EPO ちゅうごく／中国地方 ESD センターの適切な管理運営に務めた。

【運営体制】



<実施した内容>

- ・ 業務目標・業務運営計画の策定
- ・ 運営委員会の設置・開催（第1回：6/27、第2回：2/1）
- ・ 中国四国地方環境事務所との定例打ち合わせ（毎月1回）
- ・ 業務実施報告書の作成